

東北大学機械系 同窓会ニュース 創刊号

東北大学機械系同窓会
設立を祝って

会長 玉手 統
(機械・昭一七)

長年の懸案でありました東北大学工学部の機械系三学科と大学院三専攻の同窓会が平成七年十一月十一日に開催されました設立総会において承認され、一步を踏み出しました。まことに御同慶の至りです。

大正八年工学部の設置と同時に創設された機械工学科に始まり、昭和十四年の航空学科創設、工業力学科を経て精密工学科への変遷、昭和三六年の機械工学第二学科の創設以来、機械系三学科として運営されてきました。また近年の産業構造の大きな変革に対応し、二十一世紀への新たな発展を期して、平成三年四月にはそれまでの機械工学科、機械工学第二学科、精密工学科の機械系三学科を全面的に再編成し、機械知能

工学科、機械電子工学科、機械航空工学科と改組され、さらに平成七年四月には大学院重点化に伴う機械知能工学専攻、機械電子工学専攻、航空宇宙工学専攻への改組が終了し、新たな前進に踏み出しております。既に七千名を越える多数の有為な人材を輩出し、各方面で活躍しておられることは周知のことと存じます。

このような機械系三学科の改組が進行する中で、機械系としての同窓会設立の機運が高まり、既に昭和四七年に設立されている航空工力精密同窓会のご理解も得られ、平成七年八月十二日には設立準備会が開催され、ついで設立発起人会も発足し準備が重ねられ、機械系同窓会の設立総会開催となりました。新しい同窓会では、会員相互の交流と親睦を図るとともに、会誌・会報、会員名簿の整備発行、総会・講演会開催その他の事業を行うこととなります。

図らずも、この度は会長に選出されましたが、会員皆様の御協力と御援助を頂きながら機械系同窓会が発展されるよう祈念しますとともに、これまで準備を重ねてこられた方々の労苦に深甚の謝意を表します。



設立総会で挨拶する玉手会長

「東北大学機械系 同窓会」設立される

小林 陵二 (機械・昭三〇)

設立までの経緯

東北大学工学部の機械系三学科と大学院三専攻は、大正八年(一九一九年)の機械工学科の創設に始まり、昨年(一九九五年)で七六周年を迎えた由緒ある学窓であります。また皆様すでにご存じのように、機械系三学科は、近年の産業構造の変革に対応し、また二十一世紀への新たな発展を期して、平成三年四月にそれまでの機械工学科、機械工学第二学科、精密工学科の全講座を再編成して機械知能工学科、機械電子工学科、機械航空工学科に改組しました。さらに、昨年四月には大学院の重点化によって機械知能工学専攻、機械電子工学専攻、航空宇宙工学専攻への改組が成り、資源工学専攻、原子核工学専攻とともに機械・知能系として新たな一步を踏み出したところであります。

工学部全体の同窓会として現在、青葉工業会がありますが、工学部内の多くの学科ではそのほかに系・学科ごとに同窓会が組織されており、きめ細かい運営がなされています。旧精密工学科関係にも航空工力精密同窓会がありました。機械系三学

科の改組が進行するなかで機械系として同窓会を設立したいとの機運が高まり、その母体のひとつである航空工力精密同窓会のご了承も得られましたので、昨年八月十二日に設立準備会を開催して基本的事項を協議し、ついで発起人会が発足しました。新しい同窓会では、会員相互の交流と親睦を図るとともに、会誌・会報等の発行、会員名簿の整備発行、総会・講演会などの開催、その他の事業を行うことになっていきます。

設立総会と関連行事

機械系同窓会の設立総会は、平成七年十一月十一日、東京・新宿の東京大飯店において、航空工力精密同窓会の通常総会に引き続いて、二四四名の出席のもとに開催されました。

設立までの経緯の報告と趣旨説明があったのち、満場一致で同窓会の設立が決定されました。ついで会則案の審議、役員選出、事業計画及び予算案の審議が行われ、正会員の年会費を二、〇〇〇円としました。詳細は別項のとおりです。

なお、名誉会長に航空工力精密同窓会の名誉会長の宮坂五一郎氏(航空昭一六)が推挙されました。

また、この設立総会にご招待しました東北大学工学部長 及川 洪教授から、本同窓会の活発な活動と発展を期待する旨の祝辞をいただきました。

引き続き関連行事として特別講演が開催されました。講師は(株)ゼクセル社長 太田 穰氏(精密昭三五)で、「快」を指し「適」を技術」と題する講演は、講師の長年にわたるディゼル機器の技術開発に係わる内容で、品質向上と地球環境対策について多くの示唆を与えてものであります。

最後に懇親会が同じ会場において立食形式で行われ、玉手統会長のご挨拶、祝杯、思い出の歌合唱、スピーチと続き、卒業年度を越えた歓談のうちに当日の全プログラムが終了しました。

なお、その後、太田・庄子・井上の三幹事および山本・橋田・厨川を中心とする在仙委員会が発足し、東京在住の齋藤・渡辺・大池の三幹事と連絡を取りつつ、本同窓会の運営が開始されました。



懇親会、宴たけなわ

平成七・八年度
東北大学機械系同窓会役員

名誉会長

宮坂五一郎(航空・昭一六)

会長

玉手 統(機械・昭一七)

副会長

酒井 高男(航空・昭一九)

楠 兼敬(機械・昭二一)

幹事

庶務担当 齋藤 馨(精密・昭二八)

太田 照和(機械・昭四〇)

会計担当

渡辺 裕(機械・昭四七)

庄子 哲雄(機械・昭四五)

編集担当

大池 弘一(航空・昭二〇)

井上 克己(精密・昭四四)

監事

石井 敏夫(機械・昭二六)

阿部 博之(機械・昭三四)

理事

計三〇二名の方に就任いただきました。七月発刊予定の東北大学機械系同窓会誌でお知らせします。

機械系カリキュラム・
研究室の紹介

山本 悟(機械・昭五九)

現在、「機械・知能系」学科は、
機械知能工学科、機械電子工

学科、機械航空工学科、資源工学科と原子核工学科の五学科からなり、本年度三年生がその第一期生にあたります。工学部に入学した学生は、二学年から機械・知能系に配属され、専門教育科目を受講します。三学年になると、エネルギーⅠ、Ⅱ、材料Ⅰ、Ⅱ、情報・計測・制御Ⅰ、Ⅱ、システム設計、計算力学といった研究基礎分野を選択します。それぞれの分野は機械・知能系五学科の複数の研究室からなり、二学年の後期にそれぞれの分野の中から学生が希望する研究室に配属されます。この中で、機械系三学科における現在の研究室は以下の通りです(紙面の都合で教官名は省略します)。

機械知能工学科 材料システム評価学、知的計測評価学、機械材料設計学、適応設計学、知

能システム設計学、知能機械要素学、ロボット工学、計算機システム工学、知能ロボティクス論、イメージ解析学、エネルギーシステム工学、流体システム工学、熱制御工学

機械電子工学科 生体機械工学、生体機能工学、精密加工学、ナノ計測工学、トライボロジⅠ、精密成形学、マイクロマシン工学、情報応用数理学Ⅲ、メカノプレイクス、メカトロニクス設計学、計測制御学

機械航空工学科 数値流体力学、機体設計学、複合構造システム学、計算機援用工学、宇宙機械学、自動制御学、宇宙システム学、知能制御システム学、気体力学、燃焼システム学、宇宙推進工学

さらにこれらの研究室に加えて、流体科学研究所の全部門、科学計測研究所の二分野ならびに付属破壊力学応用研究施設へも配属され、学生は以前より半年早く研究室が決定されることとなります。そして四年生になると、本格的な卒業研修が始まります。最近では大半の学生が大学院への進学を希望していますので、卒業研修も大学院への第一ステップに位置づけられている傾向があります。この辺りからも大学院の拡充・重点化が必要であるということになり、本年度から大学院重点化に



新しい学科名になった表示板

伴って、機械知能工学専攻、機械電子工学専攻、航空宇宙工学専攻がスタートしました。平成八年度からは、地球工学専攻(旧資源工学専攻)と量子エネルギー工学専攻(旧原子核工学専攻)を加えて、学部同様に新五専攻体制が始まる予定です(ただし、一部の研究室は大学院では情報科学研究科に所属します)。教職員も組織上は大学院の所属となり、材料物理学、生体工学、数値シミュレーションなどの複数の研究室からなる大講座のもとで研究・教育を行います。講義カリキュラムは、大きく分けて専門基盤科目、専門科目そして学際基盤科目から構成され、特に専門基盤科目は、各専攻を横断した講義の選択が可能になりました。しかしながら、大学院重点化は始まったばかりでもあり、その体制が完全に確立するまではまだ数年が必要であることが示唆されます。機械系三学科からは、今年二一四名が卒業し、二二〇名が入学する予定です。今後毎年二〇〇名以上の新学科に所属する機械系同窓会会員が巣立っていくことになり、この体制が仮に続くとすれば約三十五年後に現会員数の約七千名と同人数に達することになります。実は平成八年度からは、新たに工学部は系別募集となり、入学する学生はその時点で機械・知能系へ配属されることとなります。

平成七年 八月十二日 東北大学機械系同窓会仮称設立準備会
 平成七年十一月十一日 同 発起人会
 平成七年十一月十一日 同 設立総会

東北大学機械系同窓会会則

(総則)

第一条 本会は「東北大学機械系同窓会」と称する。

第二条 本会は会員間の親睦を図り、向上発展を期し、併せて母校との関係を密にすることを目的として、これに必要な事業を行う。

一、総会、新入会員の歓迎会等の集会の開催

二、会誌、会報等の発行

三、会員名簿の整備と発行

四、機械系学科・専攻との連帯事業

五、その他

第三条 本会は本部を東北大学工学部機械系内に置く。また地域別に支部を設けることができる。

(会員)

第四条 本会はつぎの会員をもって組織する。

一、正会員

(イ) 東北帝国大学工学部機械工学科、同航空工学科、同工業力学科、東北大学工学部機械工学科、同工業力学科、同精密工学科、同機械工学第二学科、同機械知能工学科、同機械電子工学科、同機械航空工学科の卒業生及び東北大学大学院工学研究科機械工学専攻、同精密工学専攻、同機械工学第二専攻、同機械知能工学専攻、同機械電子工学専攻、同航空宇宙工学専攻、東北大学大学院情報科学研究科の機械系関連講座・分野の博士課程前期二年の課程(修士課程)、同後期三年の課程

(博士課程)の修了者

(ロ) 機械知能工学専攻、機械電子工学専攻、航空宇宙工学専攻、情報科学研究科機械系関連の現教官(教授、助教授、講師の全員及び助手の希望者)

(ハ) (イ)の学科及び専攻に一年以上者で理事会において承認された者

二、特別会員

(イ) 機械工学科、航空工学科、工業力学科、精密工学科、機械工学科第二学科、機械知能工学科、機械電子工学科、機械航空工学科及び機械工学専攻、精密工学専攻、機械工学第二専攻、機械知能工学専攻、機械電子工学専攻、航空宇宙工学専攻、情報科学研究科機械系関連の元教官(教授、助教授、講師、ただし卒業生は除く)

(ロ) 理事会において推薦された者並びに本会に貢献するところ大なる諸賢で特別会員として会長が委嘱する者

(役員)

第五条

本会に次の役員を置く。

会長一名、副会長、幹事、常任理事、理事各若干名、監事二名。

幹事には庶務、会計(渉外を含む)、および編集担当を置く。

役員は本会正会員とする。

第六条

理事および監事は総会で選出し、理事は互選で会長一名、副会長、常任理事若干名の候補者をたて総会の承認を経て決する。幹事は常任理事の互選をもとに会長が委嘱する。

第七条

会長は当会を代表する。副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は副会長のうち最年長者がその職務を代行する。幹事は会長の意向を体し、本会実務の総括を行う。副会長及び常

任理事は常任理事会を組織し、この会則に定めるものの外、当会の会務一般を処理する。理事は会の運営と発展のため、意見を具申するものとする。監事は会計監査を行う。

第八条 役員任期は二年とし、再任を妨げない。

第九条 本会の発展に貢献著しい会長経験者に、総会の承認を経て名誉会長を委嘱することができる。

(会議)

第十条 会議は総会、常任理事会及び理事会等とし、会長これを招集する。通常総会は毎年一回開催する。会長は必要あれば臨時総会を招集できる。総会、常任理事会及び理事会等の議長は会長これを担当する。議決は出席者の過半数の賛同を得るものとする。

(会計)

第十一条 本会の経費は会費及び寄付金等をもってこれに当てる。会計年度は四月一日に始まり翌年の三月三十一日に終わる。

第十二条 本会の予算および決算は総会の承認を経るものとする。

第十三条 会員の会費は理事会で審議し総会で決める。

(支部の設置)

第十三条 本会に第三条による次の支部を置く。

仙台支部

東京支部

西日本支部

第十四条 各支部の理事は互選で支部長一名を定める。

支部長は支部を代表し、副会長を兼任する。

支部の運営は支部の規則による。

(会則の変更)

第十五条 本会則の変更は総会の議決による。

付則 一、本会則は平成七年十一月十一日より施行する。

二、第六条及び第十条の規程に拘わらず、初回の会長、理事の候補者ならびに会長承認時の議長等の設立総会の運営は発起人会で決める。

三、第十一条の規程に拘わらず、設立総会に始まる会計年度の期間については設立総会において定めることとする。

四、本会則に拘わらず、本会の一母体である東北大学航空工力精密同窓会との円滑な接続のために必要な過渡的措置を別途講ずるものとする。

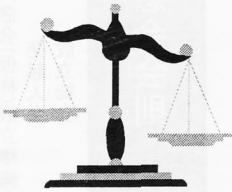
了解事項 本会の発足に当たり次の了解事項を置く。

一、第四条第一項の正会員資格（イ）の大学院修了者、とくに後期三年の課程（博士課程）の修了者には科目修了を含める。本件に関して実務一般としては青葉工業会の取扱いに従い、個々の問題が生じたときは本項（イ）を含め理事会で定める。

二、通常総会は各支部の支援のもと、開催地を持ち回りで行う。

三、当分の間、会員の消息情報の収集整備を通して会の立ち上げを促進するため、在仙委員会を置くことが出来る。庶務幹事が会長にはかり必要に応じて機能させる。

四、本会本部事務局には事務職員一名（非常勤）を置く。その任免は会長が行う。



機械系より仙台市内を展望する

平成7・8年度 事業および会計計画

- 設立総会の開催（平成7年11月11日）
- 平成8年度通常総会（平成9年5月）
- 常任理事会の開催 2回
- 会誌の発行（平成8年7月）
- 会報の発行（平成8年3月）
- 講演会の開催
- その他本会の目的達成のために必要な事業

収入

会費個人会員	12,000 千円
広告料	1,500 千円
合計	13,500 千円

支出

総会開催費	2,000 千円
会誌発行費	4,000 千円
会報発行費	1,000 千円
講演会開催費	100 千円
支部活動支援費	300 千円
事務経費	1,000 千円
人件費	1,000 千円
予備費	1,350 千円
次年度繰越金	2,750 千円
合計	13,500 千円

東北大学機械系同窓会事務局

所在地	東北大学工学部機械系内 980-77 仙台市青葉区荒巻字青葉
電話	設置準備中
ファクシミリ	設置準備中
郵便振替	口座番号 02270-8-11176 口座名称 東北大学機械系同窓会
在仙委員	太田 照和 (機械・昭40) 庄子 哲雄 (機械・昭45) 井上 克己 (精密・昭44) 橋田 俊之 (機械・昭55) 山本 悟 (機械・昭59) 厨川 常元 (精密・昭54)

会費納入のお願い

年会費 二〇,〇〇〇円

機械系同窓会の発足にともない、旧機械工学科・旧機械工学第二学科および関連大学院をご卒業の方は、平成七年度分より会費の納入をお願いいたします。同封の振込用紙をお使いになり、できれば複数年度分（例えば五年分一万円）を一括納入していただきますと大変ありがたく存じます。

事務処理を確実にするため、振込用紙に学科名と卒業年を必ずご記入くださるよう合わせてお願いいたします。

旧精密工学科・同大学院をご卒業の方は、平成七年度分までは、従来の航空・工力・精密同窓会に会費をお納めいただき、平成八年度分より機械系同窓会に納入されますようお願いいたします。機械系同窓会としての会費納入のお願いならびに振込用紙は、七月発刊予定の同窓会誌にてご案内いたします。